

合には、期中に見直すこともある

② 計上レート

確定債権債務、会計システムに計上する際に利用するレートで、主要取引銀行などの公表仲値を利用する。ただし、企業により適用レートは相違する(前月末日、前月中の日々仲値平均値、計上日の仲値等)

③ 決済レート

外貨債権債務が、売上・支払として決済される日の適用レート

④ 予約レート

為替ヘッジとして、外貨エクスポージャー(予定取引や確定取引)に対して対外的に為替予約したレート

会計上、債権債務が計上された時の

レートと決済された時のレートの差が為替差損益として計上されるため、計上時から決済時までの為替変動リスクを削減するために、計上レートになるべく近くなるように為替ヘッジを行い、為替売買損益を最小限に抑えるために実施する。したがって、計上債権債務や直近1〜3カ月程度の確度の高い売上予測に対して為替ヘッジを実施しているケースが多い。未計上の予測に対して、包括的に為替ヘッジを実施する場合、特に、2023年のように一辺

倒に円安が進むと、計上レートと決済レート差以上の為替差損益を生むリスクがある。過去には、大きな売買損を発生させることになった為替ヘッジ実施責任を問われたケースもある。

どのような為替ヘッジを行うにしても、社内でも明文化された為替ヘッ

ジュールと為替ヘッジ効果分析を行い、為替ヘッジ戦略を定期的に見直す必要がある。ただ実際は、分析ができていなかったり、大雑把な分析しかしていなかったりといった企業が多い。グローバルへの進展により

高まる外貨エクスポージャーリスクや、多様化した外貨エクスポー

ジャーリスクを適切に管理する体制を継続的に構築しなければならぬ。また、財務担当者には、短期的な為替変動に左右されるのではなく、大局的に捉える視点をぜひ養っていただきたい。

第2章

サーベイで他社の取組状況を確認 グローバル財務管理体制 構築における課題

(この章のエッセンス)

● グローバルへの進展により、企業の財務部門には為替リスク管理のみならず、資金管理・決済業務も含めたグループグローバルレベルでの財務マネジメントが求められる。

● デロイトが隔年で実施しているサーベイを参考に、企業の取組状況、直面している課題について確認する。

財務マネジメントへの期待の高まり

為替リスク変動等への対応として、企業は多様化した外貨エクスポージャーリスク管理が求められていることは第1章で述べたとおりである。グローバルへ進展し、多くのグループ会社を抱える企業の財務部門は、本社のみならず、グループ会

社も含めた財務マネジメント体制を構築し、為替変動への対応が必要となる。

一方、企業の財務部門には為替リスクを管理することだけが期待されているわけではない。財務マネジメントの観点からは、為替リスク管理と、資金管理、決済業務は切っても切り離せず、しっかりと連動させてオペレーションをすることが重要となる。よって、グローバルでの財務マ